



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

AIMS Tips

“Tips”とは、コンピュータやソフトウェアなどを利用する上で役立つ「豆知識」や「小技」のことです。今後数回に亘って連載していきます。

AIMS-Gifuを使う際のWebブラウザと個人情報の管理について

履修申請やレポート提出など、みなさんが大学で利用するAIMS-Gifu(エイムズ・ギフ)は、Webアプリケーションと呼ばれるものの一つです。AIMS-Gifuには、インターネットに接続されたコンピュータからWebブラウザを使用してアクセスします。

現行のほとんどのパーソナルコンピュータ(Windows xp/Vista/7, Mac OS Xなどを搭載しているもの)にはインターネットに接続する機能とWebブラウザが含まれていますので、インターネットに接続できればAIMS-Gifuを利用することができます。

インターネットへの接続については、学内の端末(総合情報メディアセンター、学内の教育情報システム教室及び図書館などに設置されています)、自宅のインターネット環境、学内の無線LAN、公共のインターネット接続サービスなどが利用できます。

Webブラウザについては、Windowsの場合はInternet Explorerが標準でインストールされており、これが利用できます。Mac OS Xに標準のSafariは、若干機能が制限されますが利用は可能です。筆者は、Windows, Mac OS Xともに利用可能なWebブラウザとして**Mozilla Firefoxを推奨**します。その理由として、AIMS-Gifuの機能をフルに利用できることはもちろん、表示が高速であること、セキュリティの面でより安全であることなどがあげられます。

また、どのブラウザを用いる場合でも、**最も注意すべきことは、ログインIDとパスワードの管理**です。とりわけ学内設置のコンピュータを他の利用者と**共有して使うような場合**、ログインIDやパスワードなどの情報がブラウザに残っていると、「**なりすまし**」の被害に遭うことがあります。ブラウザに残された情報や履歴等は、必要に応じて削除する心がけましょう。ブラウザには、こういった情報を残さないようにする設定があります。

例えば、

・Windows版Firefox(3.5.5)の場合: [ツール]→[オプション]から、[プライバシー]タブを選択すると、履歴等に関する情報を詳しく管理できます(図1参照)。

・Internet Explorer 8の場合: [ツール]→[インターネットオプション]から、[プライバシー]タブをクリックして「記憶させない」に設定することをお勧めします(図2参照)。他人とコンピュータを共有する場合は、この設定を確認してください。

補足: 図2の「インターネットゾーンの設定」についてプライバシーの設定を高くすると安全性は保たれますが、ユーザIDやパスワードなどブラウザに保存される情報が少なくなり、不便になります。逆に、設定を低いほうにすると、ユーザIDやパスワード情報はブラウザに保持されますが、プライバシー情報が他のWebサイトなどに読み取られるなどのリスクが生じます。共有使用の場合は、「中-高」の設定をお勧めします。

以上、各自の利用状況に合わせて設定してください。

また、いずれのブラウザを用いる場合でも、常に**最新のバージョン**にするようにしましょう。

・Windows版Firefox(3.5.5)の場合: [ヘルプ]→[ソフトウェアの更新を確認]で最新版に更新できます。

・Internet Explorer8の場合: Windows UpdateまたはMicrosoft Updateを使用します。

不明な点がある場合には、総合情報メディアセンター・松原(e-mail: masa-aims_support@gifu-u.ac.jp)まで遠慮なくお尋ねください。

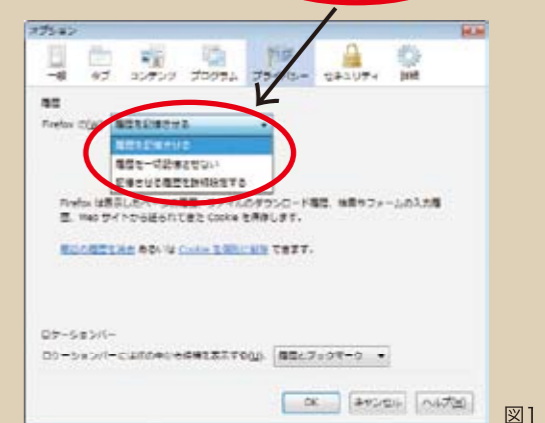
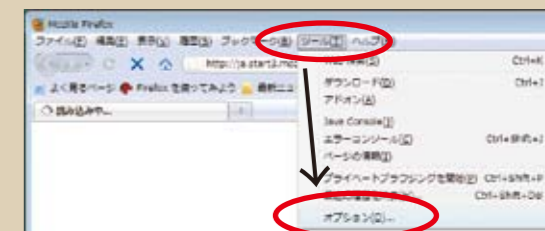


図1

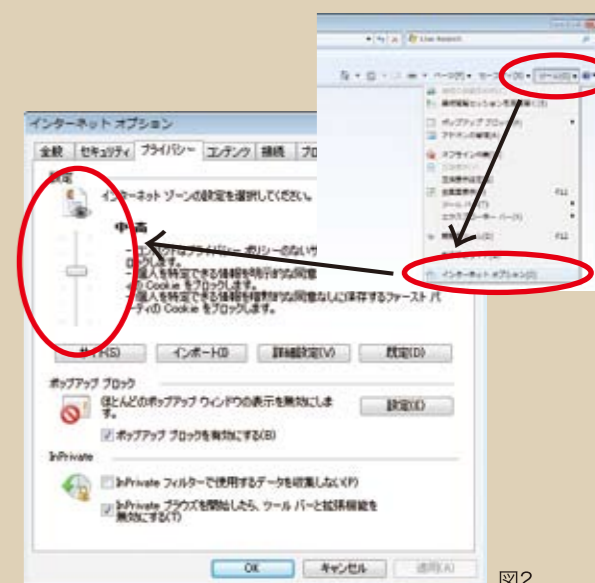


図2

授業訪問シリーズ No.12

授業科目名: 社会の中の看護

授業担当教員: 箕浦とき子, 小松妙子, 足立みゆき, 滝内隆子, 松波美紀(看護学科)



今回は、「社会の中の看護」を聴講してきました。この科目は、「いつもは当たり前で過ごしている日々の生活を一度立ち止まって自分たちの健康を確認し、看護の視点から健康を考える」というねらいのもと後学期火曜日2限に総合科目として開講されています。訪問した回の講義は箕浦教授の担当で「高齢社会の看護」と題し、高齢者の理解と看護について高齢化社会の現状を数値や



グラフで示しながら具体的に学ぶという内容で、若い世代とは違った高齢者の疾病の特徴についても詳しく解説されました。

何より私が感じたのは「高齢者に関心を持ち理解してほしい」という箕浦教授の真摯な気持ちでした。まさに社会に巣立っていく若者が学ぶ、社会生活に必要な知識としては、ふさわしい科目であるように思いました。授業中は、私語も聞かえず授業に集中している学生さんたちの姿が見受けられました。ただ、前の方の席が多く空いており、先生から「前の席に来ませんか?」との呼びかけに応える学生さんがいなかったことがすこし残念に思ったりです。

受講生74名のうち半数近くが男子学生で、「意外と多いなあ」という印象を持ちました。ジェンダー役割の見直しが望まれる現代にあって、男性も看護や介護には無関心ではられません。熱心に受講する男子学生たちに、いささか頼もしさを覚えました。高齢化社会やその問題については、新聞やさまざまなメディアを通じてぼんやり知っていたものが、数字やグラフで具体的に解説されたことでより鮮明になったのではないのでしょうか。それと同時に、高齢社会に向けての危機感や多くの問題も理解出来たと思います。

箕浦教授は、授業時間の残り15分を「感想・意見」提出の記述時間に充てられました。学生さんたちからは、今後学ぶであろう専門分野と照らし合わせた率直な感想や、高齢者を自分や家族に置き換え「大切にしなければならぬ」と再認識した意見も多く寄せられていました。

また、この科目は、今年度より厚生労働省で主催する「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環として「認知症サポーター100万人キャラバン」による「認知症サポーター」を養成する講座として認定されています。サポーターの証として「オレンジリング」が希望者に配布されることとなりました。認知症については、9回目以降3回に亘り松波准教授より講義がある予定です。

今後も、多くの受講生が高齢化社会で必要とされる知見を持ったサポーターとして、お年寄りたちが社会で安心して暮らせるまちづくりに係わる姿が将来的に近くでも見られることを期待させられました。

全学共通教育事務室 堤 久美子



・箕浦教授は、授業中にブレイクタイムとして、「高齢者との対応は自分の気持ちに余裕を持つことが大切です」と自分で撮影された美しい景色を見せていただき和ませていただきました。(撮影場所・横蔵寺(左)弘前城(右))

編集後記

「アンゲリア」第13号をお届けします。今回も興味深い記事が二つ載りました。一つは授業訪問シリーズの「社会の中の看護」という科目紹介です。教養教育の場合、いつ役立つかわからない、あるいは、実際の生活の中でどういう意味を持つものはわからない、というような批判(?)も耳にしますが、今回は、社会で生きる上に必要な「まさに役に立つ」授業紹介だったと思います。教養教育には、このような社会的知と人間的知の二つの知性のシナジー教育が求められているのでしょうか。

もう一つは、新しい連載「AIMS-Tips」です。ブラウザを使用する際に注意すべきこと(IDやパスワード、履歴の管理など)が説明されています。参考にして下さい。
編集責任: 教養教育推進センター 副センター長 中川 一雄